CASE 15 ウエイトチェッカーの導入による計量工程の自動化とそれに伴う製造工程の見直しで省人化と生産性向上に取り組む

（業種：食料品製造業）

会社概要

- 1870年代に薬の行商で創業し、その後、業態をドラックストアへ変更。
- 1970年代に医薬品の製造事業を開始し、1990年代には食品事業を開始。
- 現在は食品事業を主力とし、素材の栄養に着目し、添加物を使用しない等、健康に配慮した商品づくりを行っている。

補助金を活用した取組内容

- 工場の生産性を向上させるため、これまで人の手で商品重量を全数計量していた工程を、ウエイトチェッカーを導入することで自動化した。
- これにより製造に携わる作業者を２名削減しつつ、生産量も20%増加した。

補助金の活用にあたっての参考ポイント

- 以前よりウエイトチェッカー導入の必要性について感じていたが、導入による製造ラインの見直し、導入後の各書類の作り直し等、導入のための作業を考えた時、これまで、検討が後回しになっていた。
- しかし、本補助金がきっかけで社内で十分に話し合うことができ、現場スタッフもそのメリットを理解した上で、前向きに導入に取り組めた。

将来の成長に向けた展望・意気込み

- これまでは、販売量に合わせて後追いで生産量を徐々に引き上げてきた。
- 今後は、コストを考慮の上、戦略的に販売量と生産量を考えていきたい。
- いくら位で作れればどれくらい売れるようになるのか？このバランスを全社で十分議論の上、販売部も生産部も納得感のある目標を定める。
- そして、それに対し中期的に取り組んでいくことが次のステップと考えている。

導入した設備等の概要

- ウエイトチェッカー
- 選別機（上記の付帯設備）

導入前・課題等　省人化と生産性向上が課題

- 計量工程は30分に1回ライン上から商品を抜き取り作業者が人手で重量を計測していた。
- 一昨年から取引先の要望で全数検査となり、計量工程の作業量が大幅に増加し、作業者1名の専属配置が必要となったほか、アウトライン工程の作業が増加して生産効率も低下した。

効果・成果

導入後・改善・効果等　自動化により課題を解決！

- ウエイトチェッカー及び選別機の導入により計量工程を自動化、インライン化したことで作業者２名の省人化が図れ、生産量も20%増加した。